遊煩悩林

順正寺寺報

永代経法要

五月十日（日）
午後一時より
読経（衆僧供養）
法話
おとき

当山順正寺では永代経志を左記に定め、順正寺永代経過去帳に記載し永代供養致しております。ご希望の方は住職までお申し出下さい。

＊特別永代経（毎月ご命日読経、祥月命日特別読経）　志納金参拾萬円以上

＊永代経（毎月ご命日読経）志納金壱拾萬円以上

風薫る五月、貴家皆様にはご健勝にてお過ごしの事と存じます。

さて、例年のとおり「永代経法要」を厳修いたします。

「永代経」とは、「私」が子供や孫そして子孫の幸福を願うと同じように「私」に幸せで在って欲しいと願って下さっている仏となられたご先祖に感謝の思いを込めて勤める大切な行事です

常日頃、生活の多忙さにかまけて、ついつい忘れているご先祖のお蔭に気づき、仏恩報謝のひと時を共にすごしましょう。

永代経法要は、私が多くのご縁の結果としてこの世界に生まれさせて貰い、いま多くのご縁によって支えられ生きていることに感謝し、その御礼として後代に続く有縁の命を育み、慈しみ、私が頂いたその思いが未来永劫いつの時もある事を願う行事です。「そんなことはお寺に行かなくても坊さんの説教聞かなくても普段から思っている」と仰るかもしれません。

何故、お寺であえてこういった行事を行うのでしょう。確かに生活していれば子がいれば子供の将来の事、孫がいれば孫の往く末、妻の事、夫の事、父や母や親類縁者の事、友人の事考えないことは無いわけです。

しかしながら人間は自己を中心にしかものを考えられません。そしてその中心であるはずの自己はその時におかれた環境、状況や体調によって常に変化していきます。その時々に思うことも感ずることも違えば当然発する言葉も違うのです。

例えば東日本大震災の時に流行語になった「絆（きずな）」もうどこかに行ってしまいましたね。いまだ三陸は復興されず原発被害の福島では故郷に帰れないまま「絆」が失われ苦しんでいる人が大勢いても日本人の半数以上は経済が活性化するなら、電気料金が安くなるなら「原発再稼働」してもいいと思っています。

恥ずかしいことですが私が中学生の頃は在日朝鮮人や中国人に対する差別は当たり前のように横行していました。しかし数年前には韓流ブームがあり差別も薄れたかに見えましたが今また差別、ヘイトスピーチが横行しています。

また少し前に外国の方が取り上げて世界で話題になった「もったいない」。この精神は日本人の美徳と言って鼻高々に語りながら安売り袋詰めには食べきれないほど詰め込み得した気分。

目先の損得に日々追われ、それに気づかずに、またそれゆえに自分自身もどんどん変わって行っていることに気づかず言葉を発し、行動していませんか。その中で家族に対する思いや周りの人々に対する思いも変化していませんか。

この原稿はパソコンのワープロを使って書いていますがこの便利さ故、実際に漢字が書けなくなってきているので最近、「大人の漢字ドリル」なんてものをやってます。で、その中に「反意語」なんて問題があります。「善と悪」「正と負」「損と得」とかすごく沢山あります。これは漢字だけではなく英語でもロシア語でもスワヒリ語（スワヒリ語の事は全く知らないので、スワヒリの皆さんごめんなさい）でも人間が考え出した言葉には必ずあるのでしょう。わたしたち人間はものを考えます。その考える基になるものに「相対化」が在るのでしょう。二つの事柄を比べるという作業です。これは

極端なこと言えば私たちは絶対的（他と比べられない）な価値基準を持ってないからです。目の前に出されたものを比べて考えるわけです。当然出されたもの、事柄によって判断は変わってきます。その出されるものがこの時代この国では「経済」「効率」だけになってきているようです。つまり経済的に意味があるかないか、効率が良いか悪いか。この商品は損か得か。

先日夕方の情報番組を見ていたらパンの袋詰めセールを取り上げていました。朝のうちだけ５００円かなんか払って焼き立てパンつめ放題ってやつです。ぎゅうぎゅう詰めにした袋見せながら十なん個詰めたとご婦人が得意げに嬉しそうにテレビに映っていました。微笑ましいなと一瞬おもいながら同時に浅ましいなという思いが出てきました。また夜によくやっている経済世界の成功者が語るような番組を見ていると私たちが何百年働いても稼げないような給料を１年で貰ってる人が「偉人」だの「賢人」だのもてはやされ、いかに金を稼いだか得々と話している。「あんたがレイオフした人たちはその後どうなったの、季節労働者をどうするの」ヒガミ根性で私は「守銭奴め」と言いたくなる。

ただ、前回の寺報にも書きましたが気づくのは自分も同じ「損得」という視点で日々生活していることです。

そして私に「浅ましき身である事」を気づかせてくれるのが、「仏さまの教え」です。

気づかなければ取り巻く世界によって私たちはどんどん変わって行きます、変えられてしまいます。そして変えられていることに気づかずいつの間にか自分も見失っているのです。

昨今の宗教離れを目の当たりにして感ずるのは、経済効率中心の社会、思考では宗教は不必要だという事です。

しかし経済性のみに生きることは虚しいことでは有りませんか。

私たちが生まれて死んでいくということは損か得かそれだけなんでしょうか。ちょっとお寺に来て世間から離れてみませんか。先人が私たちに本当に伝えたかったこと、本当に受け取らねばならい事、そして子や孫に本当に残さなければならないものを一緒に考えましょう。

合掌

「沢山寝ると背が伸びるぜ」姉に言ったらガンガン寝てる、休みの日などは時間ぐらい寝てもまだ寝られると言っている。まア今のうち寝ておけジジイになると長時間寝てると腰は痛くなるし肩はこるし気持ち良く目覚めないしまア順調だナ

完全懲悪な私へ。

私たちは、基本、勧善懲悪が大好きです。善を勧め、悪を懲らしめる。気持ちが良いんですよね。完全に悪が懲らしめられるのは。そうなのです。いまの私たちの社会では、「善を勧める」という「勧善」ではなく、「完全」になっているように思えます。非常に危険な考え方です。

そもそも、「善」とは何でしょう?「悪」とは何でしょう。自分自身の中で考えてみます。そうすると、自分に都合のいいことは「善」であり、都合の悪いことは「悪」となります。自分以外は受け入れないということです。

流れに乗って、いい感じで車を走らせています。すると、その流れの前方を行く車がその流れを無視するかのようにゆっくり走っています。例え、その車が法定速度ギリギリで、もしくは若干スピードオーバー気味で走っていようが、せっかくいい感じで流れていた「私たちの車の流れ」を邪魔するようですと、こちらがとんでもないスピード違反の「流れ」であったとしても、私にとっては、「流れ」を邪魔する前方を行く車は「悪」なのです。

この「流れ」というものが社会性だと言えます。どんなに善行を勧めていたとしても、社会性という何一つ根拠のない「正義」に合わなければ悪とされます。社会的に騒がれた事件の弁護を引き受けた弁護士が、何故か社会から叩かれるという事例もあります、社会正義に相反する奴の弁護をするからという理由だけで。もうメチャクチャです。善を勧めるために悪を懲らしめるのではなく、気分が悪いから叩く。叩かれる奴が悪いんだ。気に食わないヤツを叩く。これが社会が作り出す「善」であり、私たちの大好きな「完全（勧善）懲悪」です。その「社会」は、一人ひとり「善は我に有り」と勘違いしている「私」が集まって作り上げているのです。

お釈迦さまは「善を勧める」ために「自我という悪」、自分の中に確実に存在している「悪」と対自しました。そして、「自我」「煩悩」という「悪」を懲らしめ「善」を勧めたのです。そのお釈迦さまの歩みを、自らの一生を通して訪ねていかれた親鸞聖人は、「善」をなしていると思った時に、その心根に「悪」があり、「悪」をなしているとの自覚を持っても抜け出せないのが「悪」である。そんな私なのだ、「勧善懲悪」はできない私だ、ということをお示しになられたのです。

親鸞聖人は

「愛欲の広海に沈没し名利の太山に迷惑し」「いずれの行もおよびがたき」「虚仮不実のわが身」とご自身のことをいただいたのです。

どこまでいっても好きだ嫌いだに捕らわれ、社会的立場としがらみにがんじがらめになって、どんなに善行を勧めようとも、その善行自体が、愛だの名誉だのという

欲望からなるもので、そうだと分かっていてもどうすることも出来ない。それがこの身の事実であり、自分自身に依る処がなく、真実がない私です、とそんな風にいただき、だからこそ、「罪悪深重の凡夫」な自分であるからこそ、阿弥陀如来に救われなければどうしようもない、とお示しになられたのが親鸞という方です。親鸞聖人は、自らの内に「善」は無く、ただただ「罪悪深重の凡夫」なのだ、と自身をいただき、「勧善懲悪」を棄てた方、と言っても間違いではないと思います。

では、わたしはどうなのでしょう。

こうした言葉を聞きますと、「そうかぁ、そういえば俺も結局は自分の好き嫌い、名誉欲ですべてのことをきめてるよなぁ」「周りにどう見てもらえるかで行動しているなぁ」「虚仮不実、しょせん凡夫なんだよなぁ」なんてことを言ったり、思ってみたりしてはみますが、実際のところ一切そんなわたしだとは思っていません。何かをするときは、それが善いことだという確信を持ってます。私情から出る「わたしにとっての悪」は、他人にとっては「善」であることはままあることです。その逆もしかり。それでも、わたしの「善」を否定する、否定しないまでも同調しない奴は、完全に「悪」とみなします。そして、悪を懲らしめたいと望みます。ただ、自分勝手な思い込みでしかなく、思いどおりに懲悪できない、そんな力も何もない、そういううちはまだいいのです。

怖いのは、わたしにとっての「善」が、多くの人、社会的に力や立場の強い人と共通の「善」であった時です。その時にはたらくのが「勧善懲悪」という力による弱者の排除です。戦争、イジメ、差別、殺人等の愚行が無くならない背景には、ゆがんだ「勧善懲悪」という正義も、ひとつの要因となっているのではないでしょうか。

今の社会で私たちがいう「善悪」はご都合主義です。「ご都合」は、その日によって、時間によって、入ってくる情報によって、場所によって、相手によって、くるくると目まぐるしく、自分の意志とは無関係で変わっていきます。そんな「自らのご都合」に振り回されているのは誰あらん私自身です。「私」は、縁さえ整えば、勧善懲悪の名のもとに「弱者」「意見のあわないやつ」を叩きのめす「正義の人」といつでもなりうるのです。

その危険性を持っていることを頭では理解しているつもりでも、実際はいかんともしがたい自分であり、厄介な自分なのであることを生活の些細な事柄から学び、だからこそ、一生をかけて自身に手をかけていくしかないのです。よくよく自身を注視していくことが肝心なのです。よく噛んで、味わいましょう、自分自身を。

「勧善懲悪」の心が出た時がチャンスです。自分の「ご都合」を見つめてみましょう。

副住職

雪だあ。今日は4月8日はなまつり（お釈迦様の誕生日）桜もほぼ散って葉桜だというのに雪。箪笥にしまった冬物を引っ張り出す、ままならないね。ままならぬと云えば「生死」これもままならず。でも最近はこれさえも我がままに計画的にできると思わせる風潮を散見する。「終活」というらしい。らしいというのは、この「終活」というシステムにお寺は入っていないから。今、巷で歌われる「終活」は商品だと思う。だからコマーシャルを大々的に打って広まったのだが、お寺は商品になりにくい。よってそのシステムからはずされる。外されてひがんでいるわけじゃない。だって「終活」変だ。と、こうやって外から批判しているだけではますます取り残されるだけなので順正寺は「終活を考える会（仮）」を作って「仏教徒としての終活」を提案したいと思っている。幸いお寺には色々なご縁がある。より多くの人にご理解頂くためにみなさんのご意見を頂き一緒に考えていきたいと思う。

最初の会合を五月二十四日（日）午後二時より開催します

ご出席いただける方はご一報下さい。

住職

住職からのお願い

先日テレビでも放送されましたが今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることが有ります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い申し上げます。

定例行事

聞法会　毎月2日　午後七時より

現在、鉛筆写経と座談会やってます

グリーフケアの会「微妙音」

六月七日　午後二時より

白色白光の会（婦人会）毎月第二木曜

お経の練習と法話と茶話会です